

手賀沼が海だった頃

NO. 7

地域の歴史や自然を皆で語ろう

2003・3・5

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報

柏、手賀沼、水、文化
歴史的構造を明らかに、そして集積していききたい
当会副会長 青山 茂

横浜から引越してきた人に「柏には文化がない」といわれたことがありません。柏は柏としての歴史も浅いし、一般に言う文化の集積もありません。しかし、人の営みの集積を文化として横軸にとり、その時間の流れを縦軸にとるならば、どれくらいかの差があるでしょうか。

面積からすれば、横浜と同じレベルになるには東葛全体が想定できます。少し譲っても、手賀沼を囲む地域を想定でき、そこには古代からの歴史が

十分に感じられます。発掘された遺物、遺構、古文書などは、手賀沼全体で見れば膨大な量となるでしょう。それを事実の羅列ではなく、歴史的構造として表わすのは大変な作業ですが、そういう側面から見た時、手賀沼という巨大な存在が浮かんできます。

この手賀沼は海でした。いつ頃まで海だったかについては、定説はありません。確かなのは、霞ヶ浦・北浦・印旛沼・手賀沼と



手賀沼は現在も歴史を作り続けている。
(写真・森かずおさん撮影)

周辺水田地帯を含む巨大な内海「香取の海」の西のはずれにあったこと。古代東海道はこの香取の海を渡り、ある時期には柏を通っていました。また、北柏駅北側に法華坊という巨大遺跡があり、「確定はできないが、領主無き町だったかもしれない」と話す研究者も出てきました。少し進めた言葉でいえば、戦国時代の堺の先駆的なものだった可能性もあるのです。

この忘れられた古代・中世に対し、江戸期に入ると文献も多く残り、戸張、布施、木下などの繁栄が伝えられています。手賀沼は多くの歴史と文化を育みながら、大正時代の白樺派へ引き継がれていったのです。

手賀沼は現在、汚れたまま四十年も横たわっています。この間、様々な市民活動が起こりました。直接的な浄化運動、古代米を作る人、手賀沼賛歌のように、手賀沼と我々との対話もありました。もちろん、写真を撮る人

は数知れず。いずれにしても、手賀沼は有形無形の影響を我々に与え続け、歴史を作り続けているのです。

そして、我々が活動の場とする柏です。以前、あの店のオーナーに聞いたことがありますが、「渋谷で女の子達にどこから来たのと尋ねると、普通は千葉と答える。しかし、柏の子だけは柏からと言う」。そこで柏の意識が分かり、出店したといえます。柏が目されるのは基本的には商業都市としてですが、数字の羅列には人は出てきません。しかし、このような女の子の話は、今の柏を端的に語ってくれます。

柏駅のダブルデッキには幾つもの問題があります。地域の宝となっています。普通の駅前広場なら、あれだけのストリートミュージシャンは集まらなかったでしょう。たまたま、東京から来る女性がいます。彼女は三味線を弾く傍ら、微かな

な揺らめきを心に残す踊りをたった一人の前で踊ります。踊ることと見られることが微かな糸でつながっているだけでいい、そんな感じを抱かせます。ダブルデッキは全国を席巻していくようなグルーブの表現の場であると同時に、片隅で微かに表現する人の場でもある、野外ステージのような気がします。

江戸時代に繁栄した戸張が衰退した理由は、干拓により水路が変わったこと。水の文化から切り離されたためで、この地域がいかに水と深く結びついてきたかを物語っています。地域の美術館や博物館などの文化的基盤を整備しながら、水との関わりを歴史的構造として明らかにし、そして集積していききたい。豊かな文化が、そこにあるはず

江戸時代に繁栄した戸張が衰退した理由は、干拓により水路が変わったこと。水の文化から切り離されたためで、この地域がいかに水と深く結びついてきたかを物語っています。地域の美術館や博物館などの文化的基盤を整備しながら、水との関わりを歴史的構造として明らかにし、そして集積していききたい。豊かな文化が、そこにあるはず

もう一つの手賀沼の遺産を見る

「あいじま美術展」

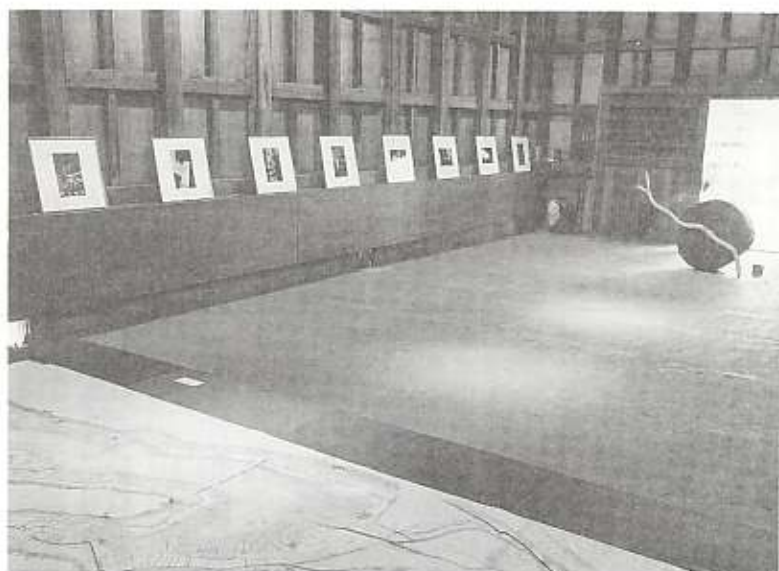
会員 中津川督章

「あいじま美術展」は昨年秋、九日間の日程で、我孫子市布佐の旧家・井上基（はじめ）家（屋号・相島）にて行いました。井上家は、江戸時代中期・享保年間に、手賀沼干

拓のためにこの地に移住してきた江戸の豪商でした。会場は、二つの倉と庭、母屋の一部を使い、13人の美術・工芸等の作家が質の高い作品展示を行い、おかげで大変な評判を呼

びました。

この展覧会の目的は、井上家の歴史的空間を意味づけ、より多くの人々にその文化的価値を知ってもらうことと、その活用例を示すことにありました。そのため、美術展としては異例の催しも行いました。その一つが、近世史家の中村勝さんによる「手賀沼干拓 その実像と虚像」というオーブニング記念講演です。手賀沼干拓にとつて最も由緒深い場（空間）で講演したいという、講師自らの提案によって実現したものです。会場は米倉（月光倉ギャラリー）で、満員の盛況でした。また、干拓を象徴する歴史資料として、同じ会場に、美術作品とともに明治7年の手賀沼干拓絵図（複製）を展示し、会期中、強い関心を呼びました。



月光倉ギャラリー（昭和初期米倉）。手前が干拓絵図



しじみの倉ギャラリー（江戸期家財蔵）

また、最終日前日、新たに誕生した「しじみの倉ギャラリー」（江戸期家財蔵）の現場説明会も催しました。説明者は、崩壊寸前のこの蔵を応急修理した宮大工の元田良一さん。本展の参加作家の一人です。この蔵の床下全面に、15センチほどの厚さに敷いたしじみの殻が発見されました。多分湿気止めのためでしょうが、珍しい例だというので、文化庁が大変注目したそうです。何故、美術展にしては型破りなものにした

か。それは井上家のこの地域での位置づけを認識してほしかったからです。井上家は、江戸から干拓のために来た豪商というのですが、現在の敷地やたがずまいにそれを見ることができません。低地をほぼ方形に土盛りした敷地、整然とした家並び等、沼南町の旧家の当主である染谷勝彦さんは、在地の旧家と比べ、「町屋的」だと指摘されました。江戸低地の町多くは、海の埋め立てによつてつくられています。つまり、江戸の町づくりの技術や感性が手賀沼の岸に残されていると考えられます（現在は戦後の大干拓で井上家周辺に沼はありません）。

精神的遺産です。それに対し、東の端には井上家という手賀沼の造形的遺産が残っています。その都市的な特質は、文化的な活動の場としてもすばらしい舞台を提供してくれました。

（中津川督章さん 彫刻家、あいじま美術展を企画）

当会の活動記録

2002.10 ~ 2003.2

松ヶ崎城址の現地見学会
平成14年10月26日
柏市の協力で、現地見学会を実施。3面に掲載。

署名・募金活動
・平成14年11月17日 柏駅東口
・平成15年1月26日 北柏駅南口
・平成15年2月23日 柏駅西口

松ヶ崎町会で講演会
平成15年2月22日
当会講師・鈴木秀夫さんが、松ヶ崎城址とその周辺の歴史について講演。参加者35人。（松ヶ崎町会集会所）

松ヶ崎城址の確認調査 昨年10月に現地見学会

松ヶ崎城址の確認調査が昨秋行われ、10月26日には現地見学会が開かれた。当会の求めに市教育委員会が協力してくれたもので、当日は約1時間30分をかけて説明。「実物を見ながらだから、よく分かる」「時代によって、ずいぶん土の色が違うね」と参加者30人は熱心に耳を傾けた。

円墳3基を確認

これまで方墳、塚、円墳の諸説があったが、円墳であることが確認された。また、現在はない堀の跡も見つかった。郭・古墳など城の施設を堀がぐるりと囲んでいたという。土塁に防御用柵の跡

堀から土塁を駆け上る敵を食い止めるための柵が、土塁途中にあったと考えられる。今回確認されたのは、柵の柱の跡



周溝の存在と形状で、円墳が確認された

土塁や堀の一部も当時の地面まで掘り下げられた



と思われる穴が2カ所。他の城跡で1間毎に柱穴が見つかった例があるが、松ヶ崎城にもその可能性が。主郭に排水施設

主郭は、隣り合う小さな郭よりも低かった。また、土塁の内側に溝状のものがあり、排水施設があったらしい。

城は16世紀には使用

16世紀の常滑焼の破片が出土。これまでも城跡の形状から「16世紀には使用」と推測されてきたが、遺物で裏付けられた。また、理由については不明だが、今回の調査では建物跡は発見されなかった。

その他、虎口（こぐち、出入り口）が東側にもあった可能性（現在は西側・南側のみ）や、破城の痕跡が見つからなかったことが明らかにされた。

柏市小青田大松 縄文中期の 大規模集落跡 100超す堅穴住居群

つくばエクスプレスの建設が急ピッチで進んでいる柏市北部。その新駅が建設される小青田の大松（おおまつ）で、縄文中期（5000〜4000年前頃）の大規模集落跡がみつかった。約2万平方メートルを発掘し、確認されたのは縄文前期・中期の土坑（穴）が280以上、堅穴



堅穴住居跡

住居跡が106軒。これまでわかっている柏市内の同時期の遺跡の中では、最大規模の集落だ。調査は千葉県文化財センターにより、平成13年12月から今年2月まで行われた。



土坑から出土した壺型土器（財・千葉県文化財センター）広報紙第28号から転載）

現地は柏北高校の東側、利根川を北に見下ろす、標高17メートルの南向き台地の先端。当時は海に囲まれた日当たりの良い岬だった。集落は、真ん中に広場の空間、それを環状に囲む形で土坑群・住居跡が密集していた。東日本でもよく見られる形態で、集落全体の直径は約150メートル。「縄文前期は台地上にバラ、バラとあった住居が、中期になって台地先端に集落を作った。時代による住居の変遷がよくわかります」と同センター担当者は話す。

同遺跡の特徴の一つである数多くの土坑は、円筒型とフラスコ型。木の実等の貯蔵に使用されたと思

われ、数10センチ〜1メートル50センチ程度の深さがある。貯蔵物の遺物は出土しなかったが、完形の甕型土器（57センチ、高さ62センチ）が見つかった。また、長野県や伊豆箱根原産の、黒曜石の石鏃（石製やじり）など、旧石器の遺物も1000点以上出土した。

流山市中野久木でも、195軒の堅穴住居跡がある大規模集落が最近見つかった。下総台地の縄文時代——市町村の発掘では集落の部分的発掘にとどまることが多く、地域全体の解明は難しいが、興味深い大規模な2遺跡の存在だ。

「松ヶ崎城址の活用と保存」のため、署名・募金活動を続けます

昨年11月から、「松ヶ崎城址の活用と保存」を求めて、当会役員を中心に署名・募金活動を行っています。全国紙・地域情報紙に広く取り上げられましたので、目にされた方も多いと思います。

非常に保存状態が良く、緑に覆われている松ヶ崎城址は、この地域にとって必要なものであると考えています。今後の署名・募金活動の予定は次の通りです。ご賛同いただけ

3月16日(日)講演会 「手賀沼干拓一その虚と実」 同日、松ヶ崎城址清掃も実施

たびかさなる洪水で、築いた堤が壊れ、困難を極めた江戸時代の手賀沼干拓。しかし、史料を調べていくと、伝わってきた話と異なる事実が浮かび上がってくるようです。千葉経済大学講師の中村勝さんに、手賀沼干拓について話していただきます。「戦後の機械排水をするまで、手賀沼干拓は実質的にはほとんど失敗。幻に終わったもの、東葛飾郡誌に記述されて以来、間違ったまま語られているものもあります」と中村さん。
▽日時 3月16日(日)午後2時30分～4時30分
▽場所 エステコート集会所(松ヶ崎・元ホテルオークス隣)▽会費 500円
松ヶ崎城址清掃は午後1時～

同日、講演会前に松ヶ崎城址の清掃を行います。ご協力よろしくお願いたします。軍手などは各自ご用意ください。
▽集合 12時45分、集合場所は次の2カ所
① 松ヶ崎・元ホテルオークス駐車場
② 北柏駅改札横
▽問い合わせ TEL 04-7131-8879 事務局(北さん) / 090-5560-2408 浦久 jrara@gaea.ocn.ne.jp 会事務局

る方、ご参加ください。
① 3月30日(日) 午前11時～正午、北柏駅北口
② 4月29日(祝) 午前10時～11時15分、柏駅南口(この日は総会)
③ 5月25日(日) 午前11時～正午、柏駅東口
*「松ヶ崎城Q&A」「署名用紙」を用意しました。街頭以外の署名でもご協力いただける方、事務局までご連絡ください。

登録した全員にメールが一斉に流れるシステム。会からは講演会・イベントなどの情報を流します。会員同士の情報交換にも便利です。ご利用ください。▽申し込み会事務局のアドレス(左欄に記載)
♪♪
おいしい料理を食べ歩きましょう
会の有志で、近辺の美味しいお店を食べ歩くグループができました。今のところ女性ばかりですが、参加は会員でなくてもOK。一緒に食べてお喋りしませんか。1回目はイタリアンを予定。▽3月19日(水) 柏

♪♪
15年度総会は4月29日(祝)
総会は11時30分～1時30分まで。場所は柏駅近くを予定しています。詳細は追って連絡いたします。
♪♪
来年度のイベント「手賀沼周辺めぐり」
♪♪
請う、ご期待!

♪♪
市川・船橋を含む旧葛飾地域には、90余の中世城跡があるといわれます。このすべてを踏査して近々本にまとめる研究家・千野原靖方さんに案内役を依頼しました。氏は千葉氏や里見氏の研究のほか、市川・松戸などの歴史散歩など多数の著書があります。
手賀沼周辺の城跡だけでなく、この地域の歴史を俯瞰できるような歴史

♪♪
散策の会が実現できればと願っております。(企画担当 竹島いわお)
♪♪
一緒に活動しませんか
地域のある方、一緒に活動しませんか。年会費は2000円、申し込みは事務局まで。「お名前、郵便番号、住所、電話、ファックス、メールアドレス」をハガキ・ファックス・お電話のいずれかでお知らせください。また会費は左記銀行までお振込みください。
▽事務局 北絃子 TEL 277-0835 柏市 松ヶ崎415-5、1-20 TEL FAX 04-7131-8879
▽会計 松平信子 TEL FAX 04-7133-6438
▽会報編集 浦久淳子 TEL FAX 04-7155-2351
▽会費振込み先 千葉銀行 柏支店(店NO-000)(800) 普通預金3461475 (手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会 伊江有可里)

♪♪
会員便り
ご一緒に中世ロマンの夢を
最近、当会の中にも様々な変化がみられます。その一つ、高齢化が進み、リタイア後、シニア人生の新しい生き方として自ら永住の地・柏市の歴史を知ろうという元気な市民が当会に増えていることです。
柏市と周辺には中世のロマンを掘り出す場所が多くあるようです。手賀沼は中世には香取の海の一部で、松ヶ崎は京の都から関東、東北へ行き交う水陸交通の要所であると同時に海上の舟を監視する城がありました。現在のJR北柏駅北側(アサヒ飲料工場裏側の高台の森)にあり、平安鎌倉室町・戦国江戸時代に平将門・千葉氏始め様々な地方豪族が入り乱れた歴史ロマン・夢の跡を残しているのです。
あなたも一緒に中世ロマンの夢を見る仲間に入りませんか!